

幾多の転機を乗り越えて

岩手県花巻市・太田開拓

岩手県花巻市の太田開拓は、県中央部の花巻市西部に位置し、奥羽山脈（真昼山地）の東麓にある。標高は140mほどと比較的低いが、冬の降雪量は2mに迫る。

1946年5月に開拓団が発足され、58戸が入植した。

この土地は、松の木とカヤの生えた原野で、木の根や石を一畝一畝掘り出し、手開墾を行った。しかし、土壌は強酸性で、豆科はほとんど収穫できず、ライ麦や菜種などを主に栽培した。県の助成でタンカルを撒いて何とか大豆・小豆も収穫できるようになった。

48年に太田開拓農事実行組合（後に、太田開拓農協、花巻市開拓酪農協、奥羽山麓酪農農協に変遷していく）が発足した。

53・54年の連年の冷害を契機に、草を主体とした酪農へと変換していった。酪農青年研究会が発足し、59年には当初の目標だった100頭を超え、この地方屈指の酪農郷に発展していった。

66年には湯田ダムが完成し、道路整備も行われ、待望の稲作が本格的に始まった。酪農家も稲作を考えるようになり、75年頃には酪農家が数戸に激減し、水田地帯に転じた。

しかし、間もなく米が生産過剰となり、減反が強いられ、畑作等に転作。中でもリンゴの栽培では大きな収益を得ることとなった。

76年に開拓30周年記念碑が建立された。この碑には、高村光太郎の『開拓に寄す』の一節が刻まれている。

かつて太田地区には、詩人で彫刻家の高村光太郎が疎開しており、開拓者との交流を深めていた。彼は開拓の過酷さを身近に感じており、開拓5年目に『開拓に寄す』という詩を贈っている。

幾多の転機を乗り越え、現在でも多くの開拓家族が暮らしており、太田地区振興会を通じて様々な地域活動を行っている。

岩手県花巻市・太田開拓

- ①調査日 2020年6月17日
- ②所在 花巻市
- ③地区の沿革 56戸が入植した。
- ④設置年月日 昭和51年10月17日
- ⑤設置者 開拓30周年記念碑建立委員会
- ⑥碑名 開拓記念碑
- ⑦碑文（表面） 太田開拓三十年記念

入植以来三十年、今や土はみのり豊かとなり各々自営農家生長した。この機において多くの人々恩に感動し、かねて心の支えとなった。座右の銘、高村光太郎の誌の精神を忘れず永遠の繁栄をねがう。

昭和五十一年十月十七日

開拓三十周年記念碑建立委員会 委員長 平賀 登志実 開拓者個人名
開拓の精神を失ふ時、人類は腐り、開拓の精神を持つ時、人類は生きる。
精神の熟土に活を与へるもの、開拓の外にない。 高村光太郎

- ⑧碑文（裏面） 無し
- ⑨現在の状況 広い敷地内で管理されている。



開拓の精神を失ふ時、
人類は腐り、

開拓の精神を持つ時、

人類は生きる。

精神の熟き活を興へるもの、
開拓の外にない。

高村光太郎